

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E111B005		現代社会と教育 (Education in the Modern Society)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	2	教育学部			氏名 長谷川祐介, 永田誠 E-mail yhasegawa@oita-u.ac.jp, m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7541, 7559											
授業の概要	この授業では、現代社会との関連の中で学校教育の課題を捉え、課題解決に向けた教育実践のあり方について理解を深める。具体的には学校や子供を取り巻く社会状況の変化と教育政策の動向、ならびにリスク社会における学校安全のあり方について理解する。後半では、現代の教育課題の解決に向けた家庭・学校・地域の連携・協働の意義と実践事例について理解を深める。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学校や子供を取り巻く社会状況の変化ならびに国内外の教育政策の動向について理解できる。																
目標2	リスク社会論の内容を踏まえ、エビデンスに基づく学校安全のあり方について理解できる。																
目標3	家庭・学校・地域の連携・協働の意義について理解できる。																
目標4	地域学校協働活動(学校支援・家庭教育支援)の事例を踏まえた教師の役割について考察することができる。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	現代社会における教育の課題 (担当:長谷川祐介、永田誠)																
2	学校の社会的機能:社会化、選抜・配分 (担当:長谷川祐介)																
3	社会変動と教育:個人化、グローバル化 (担当:長谷川祐介)																
4	子供の生活の変化(1):貧困問題 (担当:長谷川祐介)																
5	子供の生活の変化(2):格差問題 (担当:長谷川祐介)																
6	国内外の教育政策の動向 (担当:長谷川祐介)																
7	リスク社会と学校 (担当:長谷川祐介)																
8	エビデンスに基づく学校安全の取り組み (担当:長谷川祐介)																
9	社会教育と家庭・学校・地域の連携の基本的理解(担当:永田誠)																
10	家庭・学校・地域の連携と教育改革(1)教育基本法改正と教育振興基本計画にみる連携・協働(担当:永田誠)																
11	家庭・学校・地域の連携と教育改革(2)「次世代の学校・地域」創生プランと家庭・学校・地域の連携・協働(担当:永田誠)																
12	家庭・学校・地域による連携の事例(1)社会教育活動ならびに地域学校協働活動の実際(担当:永田誠)																
13	家庭・学校・地域による連携の事例(2)【実地指導講師】大分県における社会教育ならびにPTA活動の実践事例(担当:永田誠)																
14	家庭・学校・地域による連携の事例(3)【実地指導講師】大分県における家庭・学校・地域の連携・協働(学校支援・家庭教育支援)(担当:永田誠)																
15	家庭・学校・地域の連携と学校の役割:「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」(担当:永田誠)																
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	毎回、講義の終わりに、授業内容に関するコメントペーパーを記入・提出する。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	参考書等の情報を必要に応じて予習する(22.5h)。															
	事後学修	参考書、授業で板書したノート等を用いて復習する(22.5h)。															
教科書	必要な資料については、授業内で配布する。																
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領』(平成29年3月告示) 中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」(平成27年12月21日) 志水宏吉編『社会のなかの教育』岩波書店、2016年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	課題レポート	30%															
	授業時のコメントペーパー	70%															
注意事項	やむを得ない事情で欠席する場合は「事前に連絡」してください。 (授業直前の事故や急な発病のため、事前連絡が困難な状況で授業を休んだ場合、授業後すみやかに連絡すること)																
備考	前半(2回~8回)、後半(9回~15回)どちらか一方でも3分の1以上、すなわち3回以上欠席した場合は、(たとえやむを得ない理由で欠席したとしても)原則、単位取得できません。																
リンク	URL																

教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	社会教育ならびに家庭・学校・地域の連携の事業担当者等
実務経験を いかした教 育内容	大分県における社会教育・PTA活動ならびに家庭・学校・地域の連携の実践事例についての講話